

平成 30 年度予算主要事業の概要
(事業別説明資料)

教育委員会事務局



目 次

保小中連携教育の推進	1
小学校英語教育の推進	2
J F Aこころのプロジェクト「夢の教室」の開催	3
教職員研修及び児童生徒の体験学習の推進	4
放課後児童クラブ指導員・児童生徒支援員研修	5
ふるさと教育の推進	6
部活動備品購入・大会出場への支援	7
神岡小学校の大規模改修にかかる調査	8
小中学校修繕事業（小中学校管理経費）	9
「飛驒の糸引き工女」の史実調査・研究	10
荒垣秀雄氏の功績顕彰	11
中河与一文学資料館の移設・顕彰	12
飛驒市ゆかりの郷土作家作品展の開催	13
みやがわ考古民俗館の活用（文化施設一般管理）	14
山城発掘調査・埋蔵文化財発掘調査事業	15
姉小路氏城館跡の保存活用推進	16
江馬氏城館跡の保存活用推進	17
古川祭史の研究	18
デジタルアーカイブ事業	19
組紐体験を通じた伊賀市との文化交流	20
図書館自主イベントの開催	21
生涯学習推進事業（公民館講座・歴史講座）	22
ノルディックウォーキングの普及推進	23
桜ヶ丘体育館健康増進トレーニング室の器具整備	24

新規 保小中連携教育の推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
302	一般財源	302	旅費	198
			報償費	104
(前年度予算 0)				

2 事業背景・目的

初等教育期の課題として家庭状況や社会の急激な変化により、小学校1年入学当初に環境変化に適応できずに登校渋りをする児童が増えています。また、小学校と比較して中学校では相談室登校や不登校生徒の出現率が高くなっています。

このような課題に対応し、保育園・小学校・中学校の12年間を見通した一貫性のある指導により、保小中の生活面・学習面の指導・取組みについて、早期からの教育支援を行い、個に徹した指導の充実や不登校児童生徒の未然防止を図ります。

3 事業概要

① 保小中連携アドバイザー1名の配置（飛騨市教育研究所次長が兼務）

- ・ 保小中の連携

保小中連携教育推進委員会のコーディネート

- ・ 保小の連携

就学前のアプローチカリキュラム、
就学後のスタートカリキュラムの作成

- ・ 小中の連携

小中と教委との連携による不登校ゼロに向けた取り組みの強化



② 保小中連携教育推進委員会の実施（110千円）

保小中連携教育の推進を目的とした保育園・小学校・中学校職員委員会の企画・実施

③ 保小合同研修会の実施（37千円）

保小連携教育の推進を目的とした保育園・小学校職員合同研修会の企画・実施

④ 保小中連携教育先進視察（155千円）

保小中連携教育を推進している先進小学校等への視察

(款)	10 教育費	(項)	1 教育総務費	(目)	2 事務局費
所 属	教育委員会学校教育課 TEL0577-73-7494		予算書	P.112	

新規 小学校英語教育の推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
5,740	一般財源	5,740	賃金	5,520
			その他	220
(前年度予算 0)				

2 事業背景・目的

文部科学省は、平成32年度の新学習指導要領全面実施に伴い、小学校の英語授業を3・4年生が35時間、5・6年生が70時間の実施を示し、小学校3・4年生から英語の音声に慣れ親しみながらコミュニケーション能力の素地を養うこと、さらに5・6年生では身近なことについて英語の基本的な表現によって「聞く」「話す」に加え、積極的に「読む」「書く」を含めたコミュニケーション能力の基礎を養うことを求めています。

本市では、平成32年度に全6小学校の英語授業を円滑に実施するため、平成30年は移行期間、平成31年度に前倒し完全実施に向けての取り組みを進めます。

本事業では、英語指導講師の配置や英語サマーキャンプの実施により、発音・語彙・文法等の間違えを恐れずに積極的に英語を使つてのコミュニケーションを図ることができる児童の育成を目指します。

3 事業概要

① 英語指導講師（英語科教員免許所有者）2名の配置（5,520千円）

小学校3年生、4年生の英語授業を補助する講師を配置し、英語嫌いな児童をつくらなため丁寧な学習を行います。

② 英語サマーキャンプの実施（65千円）（再掲）

夏休みにALTを交えたディキャンプを行い、子どもがゲームや調理実習等の取組を通して、英語を学ぶ機会を作ります。

③ 【新規】英語教育先進校視察（155千円）

教職員が英語教育における先進小学校を視察し、授業指導の手法を学びます。

(款)	10 教育費	(項)	1 教育総務費 2 小学校費	(目)	2 事務局費 2 教育振興費
所 属	教育委員会学校教育課		Tel0577-73-7494	予算書	P.112～113・116

【拡充】 JFA こころのプロジェクト「夢の教室」の開催

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
1,410	ふるさと創生基金	1,400	委託料	1,410
	一般財源	10		
(前年度予算 507)				

2 事業背景・目的

公益財団法人日本サッカー協会が行っている社会貢献活動である JFA こころのプロジェクト事業「夢の教室」を活用し、スポーツ選手を『夢先生』として市内小学校に招聘し、『夢の教室』授業を行います。子どもたちに「夢を持つことの大切さ」、「仲間と協力することの大切さ」などを実技・レクリエーションと講義・トークを通して伝えます。

本事業は平成 29 年度に古川小学校と古川西小学校で試行しましたが、平成 30 年度は市内の小学 5 年生全員を対象に開催するよう拡充します。

「夢の教室」を通して、将来への夢をもち、その夢の実現に向けて、意欲的で具体的に行動できる子どもの育成を図ります。

3 事業概要

- ①事前アンケート、夢先生のプロフィール紹介
- ②『夢の教室』実施
 - (ア)ゲームの時間 (35分：体育館で子どもたちと夢先生の交流)
 - (イ)トークの時間 (55分：教室で夢先生が夢曲線をもとに講義、夢シート)
 - ・夢先生の夢トーク (夢先生が自身の経験をもとに夢曲線を描き伝える)
 - ・みんなの夢 (子どもたちが自分の夢を夢シートに記入し発表)
 - ・エンディング (本時のまとめをして子どもたちに最終メッセージ)
 - ・夢先生と参加者全員で記念の集合写真を撮影
- ③授業後の取組み (夢シート、事後アンケート)
- ④夢先生による夢シート記入 (1人1人の夢シートに目を通しサインとメッセージ)
- ⑤夢シート&記念写真を1人1人に配布



(款)	10 教育費	(項)	1 教育総務費	(目)	2 事務局費
所 属	教育委員会学校教育課 Tel.0577-73-7494		予算書	P.113	

拡充 教職員研修及び児童生徒の体験学習の推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】						
463	一般財源	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 60%;">報償費</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">126</td> </tr> <tr> <td>旅費</td> <td style="text-align: right;">167</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">170</td> </tr> </table>	報償費	126	旅費	167	その他	170
報償費	126							
旅費	167							
その他	170							
(前年度予算 280)								

2 事業背景・目的

新しい時代に必要となる資質・能力を子供たち一人一人に確実に育む学校教育の実現を目指した新学習指導要領が、小学校は平成32年度、中学校は平成33年度から全面実施されます。

新学習指導要領の内容を踏まえ、子供たち一人一人の成長を支え、可能性を伸ばす視点を大切にしながら、教職員研修及び児童生徒の体験学習を充実し、教職員の資質・指導力の向上、児童生徒の資質・能力の向上を目指します。

3 事業概要

① 【拡充】教職員研修の実施 (243千円)

教職員の指導力向上や様々な教育課題（ICT教育、英語教育、特別の教科道徳、特別支援教育、不登校・いじめ防止等）への対応力を高めるため、教員を対象として専門講師を招き研修会を実施してきました。平成30年度は対象者をこれまでの教員に加えて児童生徒支援員も対象とし、更なる資質向上を図ります。

② 【継続】児童生徒体験学習事業 (220千円)

退職理科教員を講師に招き、市内の自然資源を活用したフィールドワーク学習を実施します。また新しい学習指導要領における小学校からの英語教育の推進を図るため、ALT（外国語指導助手）を活用して、英語サマーキャンプを実施します。



(款)	10 教育費	(項)	1 教育総務費	(目)	2 事務局費
所 属	教育委員会学校教育課		TEL0577-73-7494	予算書	P.112～113

新規 放課後児童クラブ指導員・児童生徒支援員研修

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
346	一般財源	346
		謝礼 52
		旅費 24
		委託料 270
(前年度予算 0)		

2 事業背景・目的

放課後児童クラブ指導員は、日中保護者が仕事で家庭にいない児童に対して、放課後や夏休みなどの長期休暇中に適切な遊びや生活の場を与え、健全な育成を促す学童保育施設（放課後児童クラブ）において、児童たちが安心して放課後を過ごせるよう支援を行っています。また、児童生徒支援員は、小中学校の通常学級に在籍する支援を必要とする児童生徒に対して、学校生活や学習活動に向かうための支援を行っています。

個に応じた適切な支援を行うためには、児童生徒の発達段階や困り感を理解するための知識や資質が必要になります。このことから、専門講師を招いて研修会を飛騨市で実施し、児童生徒支援員・放課後児童クラブ指導員としての知識や資質の向上を図ります。

3 事業概要

① 放課後児童クラブ指導員研修事業 (270千円)

放課後児童クラブ指導員を対象に専門講師を招き、指導員の資質向上のための研修会を実施します。

② 教職員研修事業 (76千円)

児童生徒支援員を対象に専門講師を招き、児童生徒の発達段階や様々な困り感をもった児童生徒への支援の在り方等についての研修会を実施します。

(款) 3 民生費	(項) 2 児童福祉費	(目) 1 児童福祉総務費	
所 属	市民福祉部子育て応援課 Tel0577-73-2458	予算書	P. 69
(款) 10 教育費	(項) 2 小学校費・3 中学校費	(目) 2 教育振興費	
所 属	教育委員会学校教育課 Tel0577-73-7494	予算書	P. 116・118

継続 ふるさと教育の推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
5,000	ふるさと創生基金	5,000
		需用費 1,550
		使用料 1,105
		その他 2,345
(前年度予算 5,000)		

2 事業背景・目的

「子供たちが、ふるさとにおける様々な活動を通して『ひだびと』の生き方や考え方を学び、ふるさとを思い貢献できるようになる」ために、ふるさとを思い貢献する地元の方を取りあげたふるさと学習を充実させ、各小中学校の学校経営方針に基づいた創意工夫ある地域に根ざした「ふるさと教育」を推進します。

3 事業概要

各校の事業計画に基づき、市内小中学校8校の地域に根ざした特色あるふるさと学習を支援します。また、本事業を実施する中で、子供たちの生き生きとした活動の様子や変容など、ふるさと学習の成果についてまとめ、成果発表会や学校だより・報道機関への情報提供などを通して、広く市民に公表します。

<平成29年度ふるさと学習の取組み>

古川小学校＝古川の歴史と文化を調べる活動。米づくり体験。増島城フィールドワーク。

古川西小学校＝ふるさと魅力再発見遠足。黒内果樹園体験活動。和紙作り体験。

河合小学校＝歌舞伎体験活動。ふるさとの俳句学習。

宮川小学校＝ナチュラル宮川宿泊体験活動（そば打ち・郷土料理体験等）。古大尽体験。

神岡小学校＝春慶塗・木のベンチづくり。太子踊り体験。レールマウンテンバイク体験。

古川中学校＝市内企業訪問研修。ふるさと版画作品。

地域社会人による職業講話。

神岡中学校＝職場体験学習。カミオカンデ見学。

飛騨市の歴史・文化新聞作成。

山之村小中学校＝山っこ獅子・きつねつり。星空観察。

深洞湿原観察。



(款)	10 教育費	(項)	1 教育総務費	(目)	2 事務局費
所 属	教育委員会学校教育課		TEL0577-73-7494	予算書	P.112～113

拡充 部活動備品購入・大会出場への支援

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
5,000	ふるさと創生基金 5,000	補助金 3,000 備品購入費 2,000
<p>(前年度予算 3,000)</p>		

2 事業背景・目的

古川中学校、神岡中学校及び山之村小中学校には27の部活動があり、所属する生徒は各種大会やコンクールでの上位入賞を目指し、日々厳しい練習を行っています。

市では、各部が予選大会を勝ち抜き、岐阜県大会以上に出場する際の交通費や宿泊費を補助することで、出場する選手が不安なく練習や試合に取り組める環境を整えてきました。平成29年度から新たに練習試合等の遠征や各協会連盟が主催する大会に出場する機会も多くあるため、上位大会以外の大会出場や遠征実施の際にも交通費の補助を行いました。

更に平成30年度からは部活動備品の購入について支援を行うとともに、吹奏楽部所有楽器については計画的な整備を行うことで、保護者の費用負担を軽減するとともに各部活動の活性化を図ります。

3 事業概要

① 【新規】吹奏楽部楽器備品購入

古川中、神岡中の吹奏楽部の楽器を、学校備品として5年計画で整備します。

② 【継続】岐阜県大会以上の出場補助

出場選手及び引率者1名の交通費（バス借上料、道路通行料等）、宿泊費、傷害保険料、大会参加料の一部を補助します。

(岐阜県大会及び東海大会：補助率1/2以内、全国大会：補助率8/10以内)

※1部活動につき年間1大会。但し、県大会の上位大会出場の場合はこの限りでない。

③ 【継続】上位大会（岐阜県大会以上）以外の大会

出場及び遠征実施補助

出場選手及び引率者1名分の交通費（バス借上料、道路通行料等）の一部（補助率1/2以内）を補助します。

※1部活動につき年間2回まで。



(款)	10 教育費	(項)	3 中学校費	(目)	2 教育振興費
所 属	教育委員会学校教育課 Tel.0577-73-7494			予算書	P.118

新規 神岡小学校の大規模改修にかかる調査

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な用途】
3,365	過疎債 一般財源	委託料
	3,300 65	3,365
(前年度予算 0)		

2 事業背景・目的

神岡小学校は、昭和 61 年建築のため新基準による耐震強度があるとされ、補強工事に伴う大規模な改修が実施されていません。しかし築 32 年が経過し、内装や廊下の汚れ、校舎屋上の雨漏りや外壁剥離など、老朽化が目立っています。

そこで、建物老朽化への対応に加え、新学習指導要領で求められる英語教育や ICT 教育への環境整備など、今後の教育に則した教室の再配置及び改修を行うものです。

また、外壁改修等の大規模改修を行うことで、児童が安心して学習できる環境を整えます。

3 事業概要

平成30年度は大規模改修工事に必要な設計等を実施 (3,365千円)

・全体スケジュール

- H29 外壁等調査 教室再配置等の協議開始
- H30 大規模改修に伴う設計業務(改修メニューを決定)
- H31 大規模改修国庫予算要望(5月) ≪非構造部材耐震補強工事(体育館)≫
- H32 校舎大規模改修実施(教室照明のLED化と下水道繋ぎ込みを含む)



(款)	10 教育費	(項)	2 小学校費	(目)	1 学校管理費
所 属	教育委員会教育総務課	TEL	0577-73-7493	予算書	P.115

拡充 小中学校修繕事業（小中学校管理経費）

1 事業費 （単位：千円）	【財源内訳】	【主な使途】
8,000	一般財源	8,000 需用費 8,000

（前年度予算 2,400 ）

2 事業背景・目的

市内の小中学校は、平成 23 年度に新築された古川小学校以外は耐震補強にともなう大規模改修により整備してきました。しかし、校舎は基本的に古く、経年劣化により突発的な修繕案件が発生しています。

従来、学校修繕費に対して予算不足になった折には予算流用、補正予算、予備費充用で対応してきましたが、平成 30 年度からは 1 校あたりの修繕基礎額を 100 万円に増額し、緊急を要する突発修繕に対し、柔軟性及び迅速性を高めて安定的な学習環境を整えます。

3 事業概要

○【拡充】小中学校修繕事業（8,000千円）

- 小学校費
修繕料 5,000 千円（5 校分）
- 中学校費
修繕料 3,000 千円（3 校分：山之村小中学校含む）



(款) 10 教育費	(項) 2 小学校費 3 中学校費	(目) 1 学校管理費
所 属	教育委員会教育総務課 TEL0577-73-7493	予算書 P.115・117

新規 「飛驒の糸引き工女」の史実調査・研究

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
4,958	ふるさと創生基金	4,900	調査委託料	4,958
	一般財源	58		

(前年度予算 0)

2 事業背景・目的

明治期の日本の産業近代化の礎として信州の製糸産業に貢献した「飛驒の糸引き工女」の活躍を顕彰し、女工哀史の側面ばかりではない、飛驒に残る家族の生活を支えていた史実に基づく歴史考証を行い、将来的には「明治・大正・昭和初期の飛驒近代史」を伝える展示館設置に向けた基本計画を策定します。

また、今後の空き家活用による展示館の開設も視野に入れ、更には工女と縁の深かった伝統行事・三寺まいりを絡めた展示館と、製糸会社が寄進した本光寺・玉垣及び三寺巡りコースの設定により、観光客の回遊性の向上と滞在時間の延長を図り、まちなかの賑わい創出を目指します。

3 事業概要

- ・近代史に残る信州の製糸産業及び飛驒の糸引き工女に関する史実調査、工女が携わった信州での仕事・教育・生活・文化の詳細な検証、信州側・飛驒側の双方から見た工女達への評価の違い、映画化された小説「あゝ野麦峠」の脚色と史実との違いを検証します。
- ・工女が活躍した明治から大正、昭和初期の飛驒の歴史変遷を「飛驒の近代史」として資料と共にまとめます。
- ・飛驒の近代を表現する展示館を開設する場合の基本構想、展示シナリオ・展示リストの作成、展示館運営計画、市内他施設との連携手法、岡谷市等との連携手法の構築を図ります。
- ・正月に里帰りした工女にゆかりのあった伝統行事「三寺まいり」に焦点をあて、展示館構想と共に新たな観光誘客につなげる手法を構築します。

(款)	10 教育費	(項)	4 社会教育費	(目)	4 文化振興費
所 属	教育委員会文化振興課		TEL0577-73-7496	予算書	P.122

新規 荒垣秀雄氏の功績顕彰

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
1,320	ふるさと創生基金	1,300	補助金	1,320
	一般財源	20		
(前年度予算 0)				

2 事業背景・目的

飛騨市出身の故荒垣秀雄氏は、昭和21年から約17年間の長きに亘り、朝日新聞のコラム「天声人語」の担当執筆や多数の著書を出版されるなど、社会に大きな功績を残されました。日本の経済成長期にいち早く、環境保全の提唱や自然保護活動に尽力され、大きな影響をもたらしたことから、旧神岡町時代に名誉町民として顕彰し、名誉市民として引き継がれ、同氏は市民の誇りでもあります。

このことから、同氏の顕彰碑を建立するとともに、功績を偲ぶ催しを市民協働で開催します。

3 事業概要

生誕地顕彰石碑を建立するにあたっては、地元芸術家によるデザインとし、特に荒垣氏が自然保護活動に力を入れていたことから、自然石を基に特徴的な加工を施したものを予定しています。

また、石碑の除幕式に合わせ実行委員会との協働により、荒垣氏を偲ぶ「エッセイ展」を開催し、改めて荒垣氏が残した業績を讃える記念事業とします。石碑の建立により、名誉市民のシンボルとして、荒垣氏の偉大な功績を末永く後世に伝え続けます。



荒垣秀雄氏生家イラスト（現在は駐車場）

(款)	10 教育費	(項)	4 社会教育費	(目)	4 文化振興費
所 属	教育委員会文化振興課	TEL	0577-73-7496	予算書	P. 122

新規 中河与一文学資料館の移設・顕彰

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
2,000	ふるさと創生基金	2,000	工事請負費	1,600
			需用費	330
			その他	70
(前年度予算 0)				

2 事業背景・目的

山之村地区には小説「天の夕顔」を記念する文学碑と共に、故中河与一氏の貴重な資料を展示する「中河与一文学資料室」があり、中河文学ファンの聖地となっていますが、建設後20年が経過し、管理人もいないため情報発信がされず来訪者も少ないのが現状です。

今回、奥飛騨山之村牧場内に移設展示を行い多くの来場者の目に触れることで、あらためて郷土ゆかりの中河文学作品を顕彰し、牧場来場者の増との相乗効果を目指します。

3 事業概要

① 資料室のリニューアル移設

中河氏ゆかりの松永記念館（小田原市）とも連携し、現資料室の保管資料を奥飛騨山之村牧場内にリニューアル移設・展示することで、浪漫主義文学の代表作「天の夕顔」及び多くの作品に再び光を当てて顕彰します。

② 記念講演会の開催

記念イベントとして中河与一氏の作品や生涯に造詣のある講師を招き、記念講演会を開催します。

③ ゆかりのある文学を活用したふるさと教育

地元の児童生徒に郷土に縁のある文学作家にふれる機会を設けて、名作に対する理解や関心を深め、ふるさとを誇りに思う心を育みます。



(款) 10 教育費	(項) 4 社会教育費	(目) 6 文化財保護費	
所 属	教育委員会文化振興課 TEL0577-73-7496	予算書	P. 124

継続 飛驒市ゆかりの郷土作家作品展の開催

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
2,051	参加負担金	110	印刷製本費	850
	一般財源	1,941	委託料	444
			報償費	110
			その他	647
(前年度予算 456)				

2 事業背景・目的

飛驒市にゆかりのある作家の作品や、飛驒市が舞台となっている芸術文学作品など、飛驒市にゆかりのある芸術・文学作品は数多くありますが、市民の皆様にはまだまだ知られていない作品があります。こういった作品を飛驒市美術館に展示し、市民や観光客に広く鑑賞していただき、ふるさとの誇りを高めていただくとともに、作品のもつ魅力をPRします。

小さな美術館だからこそできる企画展として、観るだけでなく、学び、関心や知識を蓄えていく場にも努め、美術館来館者の幅を一層広げます。

3 事業概要

- ・ 貼り絵作家 井上あき子展
TVドラマ「裸の大将」の劇中作品の貼り絵製作で有名な井上あき子氏の「飛驒百一景シリーズ」等を展示します。
- ・ 写真家 細江光洋展
岐阜県美術館と飛驒市の共同開催事業として開催します。飛驒の山の暮らしなどを撮影した写真展示と杣（そま）の仕事道具を展示します。
- ・ 古川在住の合同作家展
古川在住の「洋画・日本画・書の三人展」など、長年続けてきた美術の集大成の作品を展示します。
- ・ 郷土作家個展：上葛明弘 他
国内外で活躍する飛驒市出身郷土作家の作品を展示します。

(款)	10 教育費	(項)	4 社会教育費	(目)	5 文化施設費
所 属	教育委員会文化振興課 TEL0577-73-7496			予算書	P.122～123

新規 みやがわ考古民俗館の活用（文化施設一般管理）

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】	【主な使途】
336	一般財源 336	賃金 336

（前年度予算 0 ）

2 事業背景・目的

「みやがわ考古民俗館」では、旧石器時代から縄文時代の土器・石器類を良好な遺存状態で展示しており、考古学研究者などが熱心に見学されています。平成29年9月に飛騨市美術館において「塩屋の石棒展」として1,000点以上を展示したところ1,000人余の来館者があり、飛騨市に残る貴重な彫刻石棒などが市民の共有の財産として広く認識されました。

また、国の重要有形民俗文化財に指定されている江戸時代から近代までの民具や歴史資料を展示しているため、「みやがわ考古民俗館バスツアー」では多くの参加者があり収蔵品の存在価値を再認識されました。

今後も保育園児による土器作りと野焼き体験や小学生の社会見学を通じ、飛騨の歴史や文化に興味を持つ子どもたちが増えるよう施設の有効活用に努めます。

3 事業概要

- ・みやがわ考古民俗館を、池ヶ原湿原のミズバショウ開花時期を見込んだ2ヶ月程度、業務支援員を配置して貴重な資源をPRします。



(款)	10 教育費	(項)	4 社会教育費	(目)	5 文化施設費
所 属	教育委員会文化振興課		TEL0577-73-7496	予算書	P.122

拡充 山城発掘調査・埋蔵文化財発掘調査事業

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】												
53,408	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">国庫支出金</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">17,519</td> <td style="width: 30%;">委託料</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">50,899</td> </tr> <tr> <td>負担金</td> <td style="text-align: right;">18,284</td> <td>賃金</td> <td style="text-align: right;">2,359</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td style="text-align: right;">17,605</td> <td>需用費</td> <td style="text-align: right;">150</td> </tr> </table>	国庫支出金	17,519	委託料	50,899	負担金	18,284	賃金	2,359	一般財源	17,605	需用費	150	
国庫支出金	17,519	委託料	50,899											
負担金	18,284	賃金	2,359											
一般財源	17,605	需用費	150											
(前年度予算 19,049)														

2 事業背景・目的

平成29年度に本格的に着手した「姉小路氏関連城館跡保存活用事業」並びに「江馬氏関連城館跡保存活用事業」に必要となる四つの山城の発掘調査と測量調査を実施すると共に、寿楽寺廃寺や増島城跡関連発掘に関する支援を新たに開始します。

また、引き続き遺跡内で開発が行われる場合の試掘確認調査と工事掘削で遺跡が壊される前の本発掘調査を実施して開発事業と遺跡保護との調整を図ります。

3 事業概要

① 【新規】山城等発掘調査測量事業 (42,560千円)

- ・姉小路氏関連の「小島城」「古川城」「野口城」の発掘調査、及び江馬氏関連の「傘松城」の測量調査を実施し、国史跡指定に向けた調査報告書を作成。
- ・寿楽寺廃寺の発掘確認調査支援事務 (2,016千円)。
- ・増島城跡本発掘調査 (14,289千円) 民間開発事業による本調査支援を実施。

② 【継続】詳細分布・試掘確認調査事業 (10,848千円)

- ・住宅建築や公共事業など開発が予定される土地の埋蔵文化財の所在、範囲、深さなどを明らかにし、開発と文化財保護との円滑な調整に対応。
- ・詳細分布調査事業等報告書作成 (7,718千円)

HPで遺跡地図の閲覧を可能にすることで、迅速な事業調整を実施。また、遺跡地図根拠を土器の実測図等と共にまとめた報告書を一般に公開。

(款)	10 教育費	(項)	4 社会教育費	(目)	6 文化財保護費
所 属	教育委員会文化振興課	TEL	0577-73-7496	予算書	P.124

[拡充] 姉小路氏城館跡の保存活用推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
2,123	県支出金	372	委託料	1,235
	ふるさと創生基金	1,235	旅費	497
	一般財源	516	その他	391

(前年度予算 1,201)

2 事業背景・目的

中世の国司・姉小路氏の居所であった城館群（小島城跡、古川城跡、向小島城跡、小鷹利城跡、野口城跡）は、文化庁の中世城館遺跡検討委員会において国史跡レベルの価値があると評価されました。これを受けて、平成29年度に調査指導委員会を設置して、専門家の指導のもと総合調査を実施し、平成33年度の国指定史跡の登録申請へ向けて事業を進めているところです。

今後、姉小路氏の史実解明と各山城の調査研究を行い、それぞれの城跡に適した整備を進め、貴重な歴史遺産を後世に継承し、この誇りうる史跡を個性豊かな地域づくりの核として活用することで観光振興ならびに地域の活性化を図ります。

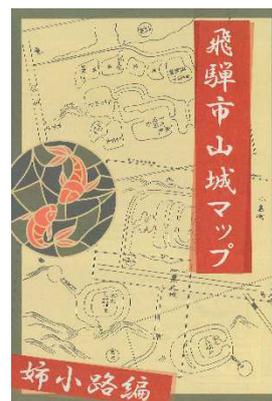
3 事業概要

① 【新規】総合調査活用事業（1,947千円）

現地踏査、測量調査、発掘調査、文献資料調査を行い、史実に基づく新たな内容を広く告知します。古川城復元想像イラストを作成し、魅力を発信します。

② 【継続】姉小路氏関連山城セミナーの開催（176千円）

姉小路関連山城セミナーを昨年に引き続き開催し、全国の山城ファンの誘客につなげます。平成29年度に発刊した「山城マップ・姉小路編」を活用し、一般者が登城可能な「小島城、古川城、小鷹利城」に誘導して山城の魅力を発信します。



山城マップ：姉小路氏編

(款) 10 教育費	(項) 4 社会教育費	(目) 6 文化財保護費	
所 属	教育委員会文化振興課 TEL0577-73-7496	予算書	P.124

拡充 江馬氏城館跡の保存活用推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】												
2,449	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">県支出金</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">481</td> <td style="width: 30%;">需用費</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">1,532</td> </tr> <tr> <td>ふるさと創生基金</td> <td style="text-align: right;">1,165</td> <td>委託料</td> <td style="text-align: right;">257</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td style="text-align: right;">803</td> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">660</td> </tr> </table>	県支出金	481	需用費	1,532	ふるさと創生基金	1,165	委託料	257	一般財源	803	その他	660	
県支出金	481	需用費	1,532											
ふるさと創生基金	1,165	委託料	257											
一般財源	803	その他	660											
(前年度予算 849)														

2 事業背景・目的

昭和55年、江馬氏が支配していた6つの山城群（高原諏訪城跡、土城跡、寺林城跡、政元城跡、洞城跡、石神城跡）と下館跡は、一体となって機能し領地を支配していたことをよく示す貴重な遺跡であるとして国史跡に指定され、更に平成29年、庭園と会所部分国名勝「江馬氏館跡庭園」の指定を受けました。

このことにより総合的な「保存活用計画」を策定して適切な保存に努め、後世に継承すると共に、この誇りうる史跡を個性豊かな地域づくりの核として活用することで観光振興ならびに地域の活性化を図ります。

3 事業概要

① 【新規】県史跡「傘松城」PR事業 (1,673千円)

国指定史跡への追加を目指す県史跡「傘松城」の測量踏査を行い、文献資料調査で史実に基づく内容を広く告知するとともに、山城復元想像イラストを作成し魅力を発信します。

② 【新規】山城マップ・江馬氏編の作成 (635千円)

「山城マップ・江馬氏編」を作成して、一般者が登城可能な「高原諏訪城・政元城・傘松城」に誘導して山城の魅力を発信します。

③ 【拡充】江馬氏関連山城セミナーの開催 (141千円)

江馬氏関連山城セミナーを昨年に引き続き開催し、全国の山城ファンの誘客につなげるほか、江馬氏が隆盛を極めた「室町時代の殿様の饗応膳」を再現し、往時を偲びながら、楽しく史実を学ぶセミナーを新たに開催します。



(款)	10 教育費	(項)	4 社会教育費	(目)	6 文化財保護費
所 属	教育委員会文化振興課	TEL	0577-73-7496	予算書	P. 124

継続 古川祭史の研究

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
2,332	一般財源	2,332
		賃金 2,242 謝礼 90

(前年度予算 2,299)

2 事業背景・目的

「古川祭」に関する公的資料は「平成元年の古川祭」「国指定重要無形文化財・古川祭」「三光台組の歩み（匠の心と町民文化）」が刊行されていますが、屋台組が所有する資料や民間研究者の文献資料を基に、古川祭の史実を再検証します。

この史実検証に加え、ユネスコ無形文化遺産に登録された今後の取り組み、祭を支える氏子減少などの現状の課題についてもまとめて、新たに「古川祭史」の発刊を目指します。

また、研究成果については年度ごとに「報告会」を開催し、市民に祭文化への意識高揚と継承への気運向上を図ります。

3 事業概要

① 古川祭関係者への取材及び屋台組資料の確認作業

- ・祭関係者への取材ヒアリングや屋台組が所有する資料の確認作業をします。
- ・研究成果報告として市民報告会や研究紀要の発行を行います。

② 研究所の本格設置

研究所スタッフを増員し、嘱託員1名・研究補助員1名・民間研究員5名体制で千代の松原公民館内に本格設置し、歴史文献調査・研究を稼働します。



(款)	10 教育費	(項)	4 社会教育費	(目)	6 文化財保護費
所 属	教育委員会文化振興課	TEL	0577-73-7496	予算書	P. 124

継続 デジタルアーカイブ事業

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
300	一般財源	300 委託料 300

(前年度予算 300)

2 事業背景・目的

これまで長い歴史の中で受け継がれてきた民俗文化は、地域独自の風土の中から育まれたものであり、飛騨市にとって貴重な地域資源です。

これらの受け継がれてきた伝統文化の調査・研究をいつでも行えるように積極的な保存・記録に努め、一般に公開することで地域資源として活用します。

また、これらの伝統文化を後世に伝えることは、現在に生きる我々の責務と捉え祭行事や踊りなどを映像で記録（保存）し、活用するデジタルアーカイブ事業を実施します。

3 事業概要

平成30年度より撮影取材および映像の編集を行い、デジタル化して恒久的な保存に努めます。

また、デジタル情報をDVD化し、市図書館において貸し出しするとともに、飛騨市文化財HPで動画視聴できるようにし、伝統芸能の調査研究としても活用します。



各地区祭礼の様子イメージ画像

(款) 10 教育費	(項) 4 社会教育費	(目) 3 図書館費	
所 属	教育委員会文化振興課 TEL0577-73-7496	予算書	P. 122

継続 組紐体験を通じた伊賀市との文化交流

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】						
371	一般財源	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 60%;">賃金</td> <td style="text-align: right;">250</td> </tr> <tr> <td>報償費</td> <td style="text-align: right;">30</td> </tr> <tr> <td>旅費</td> <td style="text-align: right;">91</td> </tr> </table>	賃金	250	報償費	30	旅費	91
賃金	250							
報償費	30							
旅費	91							
(前年度予算 950)								

2 事業背景・目的

アニメ映画「君の名は。」の重要なアイテムである組紐について、伊賀市との文化交流を始め、習得した技法により映画のように作ることができる体験コーナーを市内で実施したところ、聖地巡礼の「体験メニュー」として観光客等の市内滞在時間の増加につながり好評を博しました。昨年7月から運営をスタートし、1月末までの7ヶ月間に1,418人・月平均202人の来客があったところです。

今後も伊賀市と文化交流を進めるとともに、組紐体験講師の新しい技法の習得などを図り、体験プログラムの質の向上を目指します。

3 事業概要

① 市内での組紐体験の運営 (250千円)

飛騨古川さくら物産館を体験施設拠点とし、金～日曜日の週3日間、観光客の体験希望者を受入れます。

② 伊賀市との文化交流の実施 (121千円)

組紐作品の鑑賞、新たな組紐技法の習得を学ぶとともに、相互の文化交流を行いません。



(款)	10 教育費	(項)	4 社会教育費	(目)	4 文化振興費
所 属	教育委員会文化振興課	TEL	0577-73-7496	予算書	P. 122

継続 図書館自主イベントの開催

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
759	一般財源	759	報償費	459
			旅費	145
			需用費	155
(前年度予算 870)				

2 事業背景・目的

様々な情報メディアの発達や生活環境の変化などにより、活字（図書）離れが懸念されている中、市民の多様なニーズに対応し魅力ある図書館とするため、蔵書の充実を図り、市民の生涯学習の拠点となる図書館を目指します。

図書館での魅力的なイベントを積極的に開催することで更なる利用者の掘り起しを行い、図書館利用率の向上を目指します。

また、古川祭のユネスコ登録や江馬氏館跡庭園が国の名勝に指定されたことで注目される中、地域歴史にも重点を置き、市民等が飛騨市の歴史や文化・伝統芸能について学べるよう企画イベントを実施します。

3 事業概要

飛騨市図書館・神岡図書館企画イベント

- ・ 図書館閉館後イベント（おとなの時間、としょかん音楽会）
- ・ ハロウィン企画（バルーンアート、吹奏楽セッション）
- ・ 絵本作家講演会（児童向け読書推進）
- ・ 図書館企画講座（歴史講座、健康・文学講座、天文学講座）
- ・ 親子読み聞かせ会（ひよっこひろば、やんちゃっこタイム他）



(款)	10 教育費	(項)	4 社会教育費	(目)	3 図書館費
所 属	教育委員会文化振興課 TEL0577-73-7496			予算書	P. 121

継続 生涯学習推進事業（公民館講座・歴史講座）

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】	【主な使途】
3,589	参加負担金 768 一般財源 2,821	報償費 1,594 需用費 1,166 その他 829

（前年度予算 4,100 ）

2 事業背景・目的

生涯学習の拠点として位置づけられている公民館において利用者に寄り添ったサービスの提供、館内展示や講座を開催し、市民が親しみやすい公民館を目指しています。

また、市民の「誇り」や「宝物」の気づきを目指し、国史跡につづき名勝指定もされた江馬氏城館跡や姉小路氏関連の山城跡を学ぶ歴史講座や平成29年度実績として好評であった昔ながらの風習・文化を学ぶ講座など、市民のニーズにあった講座についてフィールドワークを取り入れた体験型講座も視野に入れ、積極的に開催します。

3 事業概要

【継続】公民館講座・歴史講座開催事業

【公民館講座】

昔ながらの季節毎の文化や風習を学び、「誇り」の持てる学びに繋げるため、地元講師等をお願いし、身近で親しみやすい講座の開催を目指します。また、市が進める「えごま」「薬草」等と連携し、健康食を学ぶ講座も開催します。（52講座）

【歴史講座】

所管課である文化振興課と連携しながら、江馬氏城館跡、姉小路山城群等を活用した講座を開催し、歴史を知り、飛騨市の「宝物」の発見に繋げていく講座を開催します。（6講座）

【継続】誰でも自主講座の開催

- ・市民自らが主宰する自主講座は、参加者はもとより指導者の育成にもつながります。さらに次のステップとしてサークル活動の設立につなぎ、自主性を促します。
- ・自主講座 60講座600名の参加を目標とします。（平成29年度 54講座494人参加）

(款) 10 教育費	(項) 4 社会教育費	(目) 7 生涯学習振興費	
属	教育委員会生涯学習課 TEL0577-73-7495	予算書	P.125

拡充 ノルディックウォーキングの普及推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
370	参加負担金 15 一般財源 355	需用費 202 助成金 100 その他 68
(前年度予算 238)		

2 事業背景・目的

高齢化が進み「生きがいづくり」や「健康寿命の延伸」が注目され、生涯スポーツ活動による市民の体力向上と健康の維持・増進が求められています。

市では誰もが取り組める軽スポーツとして平成28年度からノルディックウォーキングの普及を進めていますが、更なる普及指導員の養成及び推奨コースの設定、イベントや教室による初心者へのきっかけづくりを行うなど健康部門とも連携して普及を図ります。

3 事業概要

① 【拡充】ノルディックウォーキング普及事業 (270千円)

- ・ノルディックウォーキング教室 (継続事業)
文化財巡りやさわやかウォーキングと連携した参加しやすい教室を開催します。
- ・ウォーキング推奨コースの設定 (新規事業)
市内に推奨コースマップを作成し周知することで個人も気軽に行えるよう推進します。
コース起点には、貸出用ポール、万歩計を準備し、参加しやすい環境を整えます。
- ・市民福祉部との連携
健康診断指導時のノルディックウォーキングの紹介や「まめ得ポイント」の適用など健康づくりからも推奨します。



② 【継続】ノルディックウォーキング指導員養成事業 (100千円)

現在の指導員7名を更に5名養成して12名体制を目指します。また、指導員を中心とした自主サークルに転換を図ることで愛好者の継続的な活動を促進します。

(款) 10 教育費	(項) 5 保健体育費	(目) 1 保健体育総務費	
所 属	教育委員会生涯学習課	TEL0577-73-7495	予算書 P.125~126

新規 桜ヶ丘体育館健康増進トレーニング室の器具整備

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
5,400	一般財源 5,400	備品購入費 5,400

(前年度予算 0)

2 事業背景・目的

市民の高齢化が進み「生きがづくり」や「健康寿命の延伸」が注目され、生涯スポーツによる体力向上、健康の維持・増進が求められています。

このような中で市民利用の高い桜ヶ丘体育館では、トレーニング室の筋力系機器の老朽化と有酸素系機器の充実を求める声が利用者や体育協会から数多く寄せられています。

こうした筋力系機器・有酸素系機器の更新を図り、既利用者に加えより多くの市民に利用していただけるよう健康づくりの環境を整えます。

3 事業概要

安心して幅広い年齢層の方々に使用してもらえよう、トレーニング室の老朽化した機器を更新します。

【主な内容】

- ・ アップライトバイク、リカベンントバイク他 11 有酸素運動機器
- ・ パワーラック、オリンピックフラットベンチ他 筋力増強系機器



筋力増強系機器



フリーウエイト

(款)	10 教育費	(項)	5 保健体育費	(目)	2 体育施設費
属	教育委員会生涯学習課	TEL0577-73-7495		予算書	P.127